

仕事	能力-1	能力-2	能力-3	能力-4	能力-5
1 前向きな態度を示す	1-1 A 人生に対して前向きな態度がとれる	1-2 A 人権を尊重する態度がとれる	1-3 A 自分が間違っていたら子に謝ることができる (BBS)	1-4 B 親自身がうまくいかないとき、ヒステリックでない態度がとれる	1-5 B 家族旅行をしたとき楽しい態度がとれる
2 子の変化を待つ	2-1 A ほっとしておくことができる	2-2 A 子のプライバシーを尊重する態度がとれる	2-3 A 知っていても知らない態度がとれる	2-4 A 子を信頼することができる	2-5 B 子にとっては家がわずらわしいことを知っている
3 子の実態を理解する	3-1 A 子の今の精神状態を知っている	3-2 A 青年期は不安定な気持ちであることを知っている	3-3 A 青年期の心理的特徴を知っている	3-4 B すぐに反抗してすることを知っている	3-5 B 子の生活態度を知っている
	3-6 B 親にうそをつくことを知っている	3-7 B 子の友人関係を知っている	3-8 B 彼(彼女)がいるのを知っている	3-9 B 望ましい勉強方法を知っている	
4 子と意識的に関わる	4-1 A 子からの相談や話し合いに応ずることができる	4-2 A 何に関心があるかを知っている	4-3 A じっくり話を聞くことができる	4-4 A わが子に注意ができる	4-5 A 子が悪いことをしたときき然とした態度がとれる
	4-6 B 子がパニックにおちいっているとき冷静な態度がとれる	4-7 B 子が落ち込んでいるとき上手に励ますことができる	4-8 B 家では食事を一緒にするよう誘うことができる	4-9 B わが子にあいさつができる	4-10 B 高校生に適した性教育ができる
	4-11 B 子からの進路相談に応じることができる	4-12 B 現代社会の就職状況や仕事の内容について知っている	4-13 B 部活のおっかけができる		
5 他の関係者と連携する	5-1 A 学校の様子を知っている	5-2 B 同じ高校生の子を持つ親と情報交換や相談をすることができる	5-3 B 学校側と緊密かつ自立的な連携ができる		
6 家庭を安らぎの場にする	6-1 A 家族との会話がでる	6-2 B 他愛ないおしゃべりができる	6-3 B 励ます時、子が何を食いたいかわ知っている		
7 子と相互に生活を支え合う	7-1 A お願いの態度がとれる	7-2 A そうじ、片づけを子にさせることができる	7-3 A 食事の仕度、洗たく、そうじができる	7-4 B 高校生に必要な栄養素について知っている	7-5 B 子にとっての必需品を買うことができる (買い物)
注1 能力の種別は右のとおりである	知識		技能・態度		
注2 能力の重要度は右のとおりである	A: 非常に重要で、詳細に知っているか、よくできる必要がある				
	B: 普通であって、一般的に知っているか、普通にできればよい				
	C: あまり重要でなく、概略を知っているか、体験していればよい				

図1 CUDBAS 必要能力・資質リスト「高校生の子をもつ親」(列・行ともに重要度順)

初出: 西村美東士「クドバスを活用した子育て学習の内容編成—高校生の子をもつ親のために」、聖徳大学生涯学習研究所紀要『生涯学習研究』3号 A4版 pp.41-54

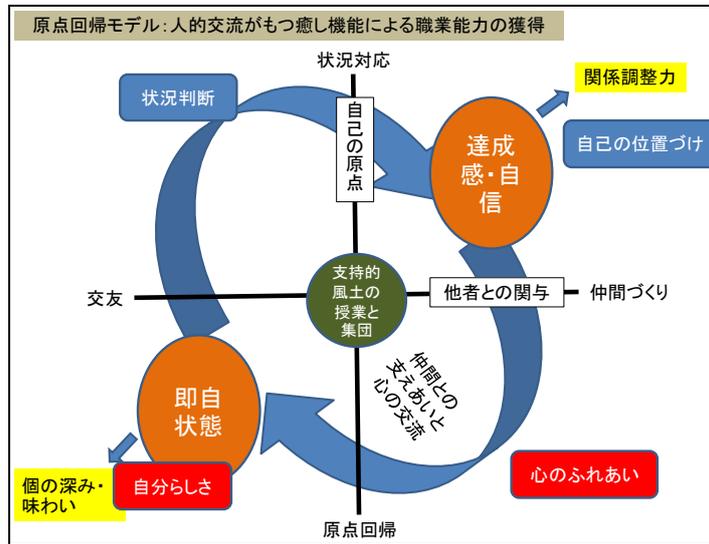


図2 人的交流が持つ癒し機能(原点復帰)による職業能力の獲得  
(個人化・社会化のシフトチェンジへの契機として)

下図(図3)説明

西村美東士「出産・子育ての自己決定能力を育む大学授業の方法と効果—女子学生(未来の母親)の社会化を支援する技法」、聖徳大学FD紀要『聖徳の教え育む技法』1号、pp.31-49、2006年12月。同研究では、2006年度前期児童学科生涯学習指導者コース専門科目「学習情報の提供と相談」(受講学生7名)における教師の指導行為を分析した。その一環として、「(子育て支援における)学習相談に必要な能力」リスト図を作成させる授業を録画し、発言ごとに発言文字数と実際の秒数を算出し、5文字1秒と想定して発言にかかったと思われる時間を仮に割り出し、これを実際の秒数から差し引いたものが5秒を越える場合に、「空白時間」として記録した。「空白時間」は、学生個人の「自己内対話」のための時間である場合と、学生同士の協同のための「自己内対話」の時間である場合とが考えられる。両方の意味から、空白時間も重視して分析した。その結果を下図に示す。

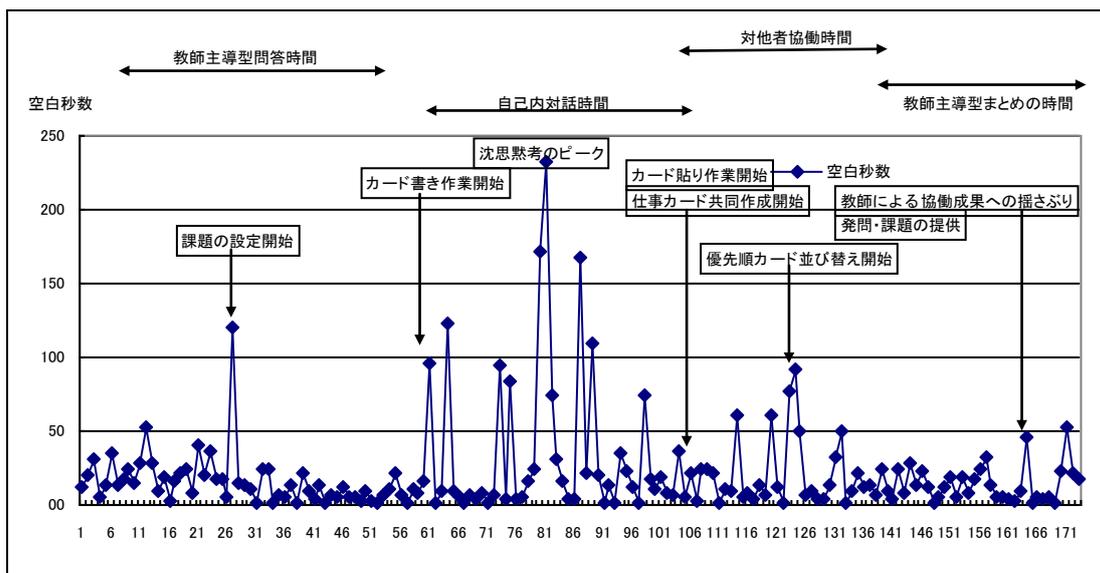


図3 ワークショップ型授業における「空白時間」の算出

初出：西村美東士「出産・子育ての自己決定能力を育む大学授業の方法と効果—女子学生(未来の母親)の社会化を支援する技法」、聖徳大学FD紀要『聖徳の教え育む技法』1号、pp.31-49、2006年12月